

窓辺

いけの
池野 文昭
ふみあき

自治医科大学

私は医師になるため、自治医科大学に進学した。

自治医科大学は、全国都道府県により設立された医科大学。学費が免除されるかわりに、卒業後9年間は出身都道府県に勤務し、地域やへき地医療のための医師を育てる大学である。日本中に同級生がいるというわけだ。そして卒業後、皆バラバラになり、出身県に戻っていく。

私も卒業後は地元・静岡県に戻って県庁に所属し、臨床医として県内の公立病

歩むべく渡米した。18歳で医師になろうと決めた、病める患者様を救いたいという志。実際に日本では臨床医として9年間、病める患者様を救ってきた。

院で研修を積み、1997〜2001年まで北遠の佐久間病院に勤務した。6年の医学生生活と卒後9年の勤務義務で、計15年間の人生が高校卒業直後に決まることになる。この15年が終了した時には、34歳になっていたというわけだ。いいおっさんになっていた。

自治医大を卒業した多くの同級生や先輩、後輩はそれ以降もその地域、出身県に残り、地域医療に貢献している。しかし、私はこの

34歳の時に、新たな人生を

そして今、医療イノベーションを起こすべく日本とアメリカを結び、医療、医療機器、そして高齢化社会へのエコシステムを作ることに尽力している。形は変われど、病める患者様を救うという志は一点の曇りもない。地に足が着いた地域医療から世界的な視点に立ち、世界の医療に貢献する。これが私に課せられた人生の義務である。

スタンフォード大
主任研究員、医師